

世界最高峰の障害者スポーツ大会「ロンドンパラリンピック競技大会」が8月29日、イギリスで開幕した。大会には過去最多となる165か国・地域から、4,200人を超える選手が出場。9月9日まで12日間にわたり、オリンピックとほぼ同じ会場で熱戦が繰り広げられる。

身体に障害がある人などを対象にした夏季パラリンピックは、今大会で14回目。北朝鮮やカメルーンなどが初の参加となり、2008年の北京大会よりも14か国・地域増えた。水泳・陸上・柔道・車いすバスケットボールなど20競技503種目が実施される。

日本からは134選手が17競技に参加する。車いす女子バスケットボールなどの団体競技で出場権を得られなかった関係で、出場選手は前大会よりも28人減った。最年長は卓球の別所キミエ選手(64)で、最年少はゴールボールの若杉遥選手(17)。

開会式は、オリンピックと同じロンドン東部のスタジアムで開かれた。日本選手団は、団長の中森邦男・日本障害者スポーツ協会事務局長と旗手の木村敬一選手(水泳)を先頭に入場。各選手が笑顔で続

ロンドンパラリンピック、いよいよ幕開け

いた。

期待されるのは、前大会の金5、銀14、銅8を上回るメダルだ。国庫補助による選手強化費は2億9,000万円と4年前より4倍に増加。また日本パラリンピアンズ協会の調査によると、専任コーチがいる割合が55%と10ポイント上昇している。水泳などの一部競技では、オリンピック選手が利用するナショナルトレーニングセンターでの練習も可能になった。

前大会で金メダルを獲得した自転車石井雅史選手や、陸上男子の伊藤智也選手、水泳の鈴木孝幸選手、車いすテニスの国枝慎吾選手に大きな期待がかかる。銀メダルだった水泳の小山恭輔選手や陸上の高田稔浩選手などは、より良い色のメダルを狙う。

イギリスはパラリンピック発祥の地。1948年のロンドンオリンピックに合わせ、ロンドン郊外の病院内で、車いすの退役軍人によるリハビリテーションのためのアーチェリー大会を開催したのが起こりとされる。それが、第1回パラリンピックと位置付けられる60年のローマ大会につながったという。

(福祉新聞・2589号 2012年9月3日)

お知らせ

日時：2012年12月9日(日) 12:00～17:00
場所：川崎医科大学附属病院 8階大講堂
参加費：5,000円
受講対象：看護師、療法士、介護士、医師などリハビリテーション関連職種
定員：200人
申し込み開始：2012年8月1日から/定員になり次第終了
申し込み方法：電子メールに氏名(ふりがな)、所属医療機関・施設名、部署名、職種、連絡先住所、日中連絡可能な電話番号を記載、

第4回 FIM 講習会 in 倉敷

1人につき1通とする
メールアドレス：rehafim@med.kawasaki-m.ac.jp
問い合わせ先：川崎医科大学リハビリテーション医学教室 森安睦子
(代表 Tel 086-462-1111)
主催：川崎医科大学附属病院リハビリテーション科
〒701-0192 岡山県倉敷市松島 577
代表 Tel 086-462-1111
後援：中国四国リハビリテーション医学研究会